

進路指導室から 第316号

はじめに

今日は2月6日(土)です。3年生は国公立大学の出願を終え、後は受験でしっかり力を発揮するのみです。1年生は「高1駿台全国模試」、2年生は「大学入学共通テスト模試・2月(ベネッセ)」を受験しています。入試においても次年度へと移りつつあります。

さて、2月6日(土)の毎日新聞の「人生相談」で、好奇心旺盛ゆえに将来の夢を絞れない17歳の女性の相談が紹介されていました。これに対して、漫画家のヤマザキマリさんは以下のように回答しています。

そういうことなら、いっそ何でもやってみたらどうでしょう。そもそも17歳という年齢で、自分にどんな仕事が出ているかを見極めるのは難しいと思うのです。やってみたい仕事と、自分に合っている仕事は違います。自分が備えたスキルとやる気を潤滑に発揮できる仕事と出合うには、さまざまな経験を積まなければならないでしょう。

(中略)

誰にも先が見えない人生には正しい選択も間違った選択ありません。肝心なのはどんな境遇にも向き合える順応性を養うこと。今はどんな仕事をしたかを決めるよりも、教養と知識、そして失敗も含むさまざまな経験をたくさん積んでください。

私自身の場合、将来の夢が絞れないというより、大人になって何がしたいのかさっぱりわかりませんでした。それゆえ、いろいろなことを経験しました。その多くは失敗に終わりましたが、いろいろな縁があり、今の自分の姿に至っていると思っています。

「小論文講演会」について

2月3日(木)に学研学力開発部「小論文入試問題分析プロジェクト」チーム・リーダーの大堀 精一先生をお迎えし、「小論文講演会」を実施しました。例年は大堀先生に来校をお願いし講演していただいていたのですが、今年度は大堀先生のご自宅からオンラインでの実施となりました。

当日は、新型コロナウイルス感染症が社会や私たちに意識に与えた影響を中心にお話をいただきました。感染が広がる中でSNS(ソーシャル・ネットワーク・システム)は、高度経済成長が終わり、共通の価値が見失われバラバラに孤立した人々が、悩みや趣味を共有し、あらゆるつながりを求める役割を果たしていますが、その光と影の側面に注目していく必要があるとお話いただきました。



大堀先生の著書『小論文 書き方と考え方』

なお、大堀先生は、『小論文 書き方と考え方』(講談社選書メチエ)を出されています。その序章の中で、小論文の意義について以下のように述べられています。

このように入試対策という観点から小論文に目を向けはじめた直ぐに、私はあることに気づかされた。入試で小論文を書かなくてはならなくなった高校生たちは、そこで初めて自分たちの社会に起きているさまざまな問題について深く考え、まとめた文章を「書く」という経験に出会うことだ。逆にいえば、入試を通して小論文と出あわなければ、彼らは社会問題について考えることも「書く」経験をくぐることもなく大学に進み、人によってはそのまま実社会に出て行きかねない。

(中略)

小論文指導に長く関わってきた、ある高校の先生は「入試に徹すれば必ずから入試を超えた何かをつかむことができる」と言った。至言だと思う。高校生たちにとって小論文を「書く」ことは、自分を取り巻く社会の現実と向き合っていると感じたこと、思ったことを自分の言葉で語るきっかけとなるはずだ。それを私は、「自分の言葉を持ってリアルに生きる」という言い方で表している。

国公立大学の後期日程を中心に小論文が課せられていますが、小論文で逆転して合格したケースが何度もありました。本校でも文章を書くことを苦手としている生徒がいますが、小論文が書けることは大きな武器となります。

「令和3年度国公立大学入学者選抜試験日程別試験志願状況」について

2月5日(金)に文部科学省は「令和3年度国公立大学入学者選抜試験日程別試験志願状況」を発表しました。志願者は前年同時点より1万754人少ない38万1350人。募集人員に対する倍率は前年と同じ3.9倍でした。

志願倍率を学部系統別にみると、「人文・社会」4.0倍、「理工」3.8倍、「農・水産」3.5倍、「医・歯」4.0倍、「薬・看護」4.6倍、「教員養成」3.1倍、「その他」4.2倍となっています。なお、独自日程で試験を実施する国際教養大学(秋田県)と新潟県立大学は含まれていません。確定した志願者数と倍率は24日(水)に発表されます。

〔令和3年度国公立大学入学者選抜試験日程別試験志願状況〕

	試験日程	出願受付実施大学・学部数	令和3年度入学者選抜			令和2年度入学者選抜		
			募集人員	志願者人員	志願倍率	募集人員	志願者人員	志願倍率
国立	前	82大学 391学部	63,669	162,697	2.6	63,828	182,772	2.9
	後	72大学 283学部	13,190	105,545	8.0	14,168	124,420	8.8
	計	82大学 392学部	76,859	268,242	3.5	77,996	307,192	3.9
公立	前	87大学 191学部	26,210	50,715	3.1	16,223	60,2980	3.7
	後	65大学 141学部	3,487	37,102	10.6	3,572	40,667	11.4
	中	22大学 30学部	2,364	25,291	10.7	2,355	31,426	13.3
	計	90大学 202学部	22,061	113,108	5.1	22,150	132,373	6.0
国公立	前	169大学 582学部	79,879	213,412	2.7	80,051	243,052	3.0
	後	137大学 424学部	16,677	142,647	8.6	17,740	165,097	9.3
	中	22大学 30学部	2,364	25,291	10.7	2,355	31,426	13.3
	計	172大学 594学部	98,920	381,350	3.9	100,146	439,565	4.4

「主要私立大学志願状況」について

河合塾は、2月4日(木)段階の私立大学(主に例年志願者1万人超の大学と各地区拠点大学)のうち志願者が半明した99大学の志願状況を「kei-net」で以下のように発表しています。秋の段階とは異なり、共通テスト方式での出願が一般入試よりも相対的に多くなっています。

〔主要私立大学志願状況〕

学校区分	一般入試				共通テスト利用				
	19年度	20年度	21年度	21/20	19年度	20年度	21年度	21/20	
主要99大学 計	1,608,172	155,850	1,348,648	87%	839,690	737,578	689,375	93%	
主な内訳	早慶上理	199,416	189,318	149,657	79%	36,385	31,337	49,786	159%
	MARCH	271,340	259,903	238,799	92%	154,442	128,569	121,120	94%
	成成明國武	59,239	54,479	46,844	86%	43,169	31,312	27,525	88%
	日東駒専	131,520	125,519	113,130	90%	112,087	79,349	74,591	94%
	首都圏理系10大学	90,823	89,407	79,421	89%	98,587	99,680	101,250	102%
	首都圏女子14大学	35,170	34,378	28,223	82%	27,830	20,193	17,094	85%
	関関同立	184,453	178,935	163,346	91%	79,964	75,968	66,051	87%
	産近甲龍	184,972	175,619	153,150	87%	36,027	35,110	32,147	92%
	北星学園・北海学園	6,315	7,310	6,222	85%	3,545	3,564	2,888	81%
	東北学院	5,741	5,571	5,502	99%	3,637	3,217	3,356	104%
	南山・愛知・中京・名城	66,686	65,539	58,847	90%	34,883	37,188	33,119	89%
	西南学院・福岡	44,282	46,193	39,704	86%	24,868	24,416	20,33693	83%

(大学グループ)

早慶上理:早稲田・慶應義塾・上智・東京理科 MARCH:明治・青山学院・立教・中央・法政 日東駒専:日本・東京・駒澤・専修
 成成明國武:成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵 首都圏理系10大学:千葉工業・北里・工学院・芝浦工業・東京工科・東京電機・
 東京都市・東京農業・麻布・神奈川工科 首都圏14女子大学:大妻女子・学習院女子・共立女子・白百合女子・実践女子・昭和女子・
 聖心女子・清泉女子・津田塾・東京女子・東京家政・日本女子・東洋英和女学院・フェリス女学院 関関同立:関西・関西学院・同志社・
 立命館 産近甲龍:京都産業・近畿・甲南・龍谷

終わりに

先日、全国高校生かるたグランプリを中止するとの連絡を受けました。この大会は、高校選手権、全総文と並ぶ高校生にとっては大切な大会です。今年度の中国地区代表は、昨年11月の中国地区大会で優勝した山口県の小野田高校でした。その際に小野田高校の監督さんと部員たちに、昨年度出場できなかった基町高校の分まで頑張りたいとエールを送りました。出場できない悔しさを知っているだけに本当に残念に思っています。

(文責:進路指導部 池本 邦彦)